

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計
わが国のODA	無償資金協力 (億円)	7.74	92.49
	有償資金協力 (億円)	0	0
技術協力経費 (億円)		3.75	47.41
JICAの技術協力実績	研修員受入 (人)	29(新規)+1(継続)	246
	専門家派遣 (人)	7(新規)+7(継続)	72
	調査団派遣 (人)	11(新規)+0(継続)	203
	協力隊派遣 (人)	11(新規)+22(継続)	160
	機材供与 (100万円)	27	768
	単独機材供与 (100万円)	14.83	248.51
	開発調査 (件)	0	2
プロジェクト方式技術協力 (件)		1	2

わが国の対トンガODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

無償資金協力 8.37 (66.6%)	技術協力 4.19 (33.4%)
---------------------------	-------------------------

● 農林・水産分野 ●

プロジェクト方式技術協力事業

プロジェクト名 期	各種チームの派遣		人数・経費実績			
	年度	形態		専門家派遣 (人)	カウンターパート受入(人)	機材供与(千円)
水産増殖研究開発計画 (当初R/D協力期間) 91.10.2~96.10.1 (フォローアップ協力期間) 96.10.2~98.10.1	90	長期調査	95年度までの 累計	23	52	115,373
	90	プロジェクト				
	91	形成調査	96年度	5	2	
	91	事前調査				
	91	実施協議				
	92	計画打合せ				
	94	巡回指導				
96	終了時評価	継続	6	0	5,474	

〈要請背景〉

トンガ政府は、国民の重要な動物性たんぱく質の供給源となっているリーフ（珊瑚礁）内漁業資源の管理および維持増大を図るため、無償資金協力で建設された水産研究センターを拠点としたプロジェクト方式技術協力をわが国に要請してきた。

〈目的と期待される成果〉

有用魚介類の増養殖技術開発および水産資源管理の基礎技術を移転することにより、水産研究センターの養殖・資源管理研究能力を強化する。

〈協力活動内容〉

(1) 有用魚類（ボラ、アイゴ、ミルクフィッシュ）の資源について分布、産卵時期、季節的出現、成長度など生物学的・生態学的研究を行う。 (2) 有用魚類の天然種苗採捕のための適切な手法を開発する。 (3) 有用魚類の水槽内での中間育成、囲い網養殖に関する研究を行う。 (4) ボラ類の水槽内での中間育成、囲い網養殖の経済的可能性に関する研究を行う。 (5) 有用貝類の生息環境および資源状況の調査を行う。 (6) 有用貝類の資源増殖に関する実験を行う。 (7) 有用貝

類の放流のための生態環境調査を行う。(8) 有用貝類(シヤコガイ、タカセガイなど)の放流実験を行う。(9) 資源増殖手法確立のための放流後の追跡調査を行う。(10) 有用貝類の水産統計調査とその整備を行う。(11) 資源管理のための資源評価調査を行う。

### 無償資金協力事業(JICA担当分)

プロジェクト名	相手国 実施機関	調査業務 受注企業名	供与 年度	金額 (億円)	E/N 署名日	JICA実施業務	
						基本設計・簡易 機材案件調査	実施促進・ フォローアップ
マグロ漁業調査訓練船建造計画	水産省	マルハ(株)	96	7.00	97.4.16	96.11(本)	
<p>水産物を常食としているトンガでは、人口増加により水産資源枯渇の問題が生じているが、現在使用しているマグロ漁業調査訓練船は、老朽化により調査訓練活動に支障を来している。このためマグロ漁業調査訓練船の建造、および日本式延縄漁具、米国式延縄漁具などの供与を行う。</p>							

## ● 保健医療分野 ●

### 機材供与事業

案件名	数量	経費(千円) (支出済み額)	供与先	供与形態	関連事業
臨床検査用機材	一式	14,832	バイオラ病院放射線科	一般単独機材	協力隊派遣

## トゥヴァル

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計
わが国のODA	無償資金協力 (億円)	6.14	23.71
	有償資金協力 (億円)	0	0
技術協力経費 (億円)		0.31	8.33
JICAの技術協力実績	研修員受入 (人)	11(新規)+2(継続)	55
	専門家派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	5
	調査団派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	29
	協力隊派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	機材供与 (100万円)	0	26
	単独機材供与 (100万円)	0	21
	開発調査 (件)	0	2
	プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0

わが国の対トゥヴァルODA(1996年暦年支出純額ベース、単位:億円)

無償資金協力 3.86 (76.8%)	技術協力 1.16 (23.2%)
---------------------------	-------------------------

● 人的資源分野 ●

無償資金協力事業 (JICA担当分)

プロジェクト名	相手国 実施機関	調査業務 受注企業名	供与 年度	金額 (億円)	E/N 署名日	JICA実施業務	
						基本設計・簡易 機材案件調査	実施促進・ フォローアップ
モトフォウア中等教育施設拡充計画	保健スポーツ 人材開発省	(株)パシフィック コンサルタン ツインター ナショナル	96	6.08	96.716		
<p>トゥヴァルの公立モトフォウア中学校は、同国の中等教育分野の中心的な役割を果たしているが、施設の老朽化が著しいため、一般教室棟、特別教室棟、男子・女子寄宿舎、食堂棟を建設するとともに、実験・実習用機材などを整備する。</p>							

● ヴァヌアツ

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計	
わが国の ODA	無償資金協力 (億円)	0.05	53.71	
	有償資金協力 (億円)	0	0	
JICAの 技術協力実績	技術協力経費 (億円)	2.07	19.41	
	形態別	研修員受入 (人)	21(新規) + 2(継続)	130
		専門家派遣 (人)	1(新規) + 1(継続)	16
		調査団派遣 (人)	10(新規) + 0(継続)	125
		協力隊派遣 (人)	7(新規) + 17(継続)	54
		機材供与 (100万円)	6	135
	単独機材供与 (100万円)	1.08	47.75	
	開発調査 (件)	0	1	
プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0		

わが国の対ヴァヌアツODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

無償資金協力	0.18
技術協力	2.33
政府貸付等	-0.11

● 人的資源分野 ●

機材供与事業

案件名	数量	経費(千円) (支出済み額)	供与先	供与形態	関連事業
保健衛生巡回指導用機材	一式	1,079	保健省シリマウリ・ヘルス センター	WID関連特 別機材	協力隊派遣

# クック諸島

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計
わが国のODA	無償資金協力 (億円)	0	0.50
	有償資金協力 (億円)	0	0
JICAの技術協力実績	技術協力経費 (億円)	0.20	5.24
	形態別		
	研修員受入 (人)	3(新規)+0(継続)	52
	専門家派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	18
	調査団派遣 (人)	5(新規)+0(継続)	43
	協力隊派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	機材供与 (100万円)	0	8
	単独機材供与 (100万円)	0	0
	開発調査 (件)	0	3
プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0	

わが国の対クック諸島ODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

技術協力 0.28 (100%)
------------------------

# ニウエ

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計
わが国のODA	技術協力経費 (億円)	0.03	0.48
	形態別		
JICAの技術協力実績	研修員受入 (人)	2(新規)+0(継続)	30
	専門家派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	調査団派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	協力隊派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	機材供与 (100万円)	0	0
	単独機材供与 (100万円)	0	0
	開発調査 (件)	0	0
	プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0

わが国の対ニウエODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

技術協力 0.05 (100%)
------------------------

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計
JICAの技術協力実績	技術協力経費 (億円)	0.01	0.05
	形態別		
	研修員受入 (人)	0(新規)+0(継続)	5
	専門家派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	調査団派遣 (人)	1(新規)+0(継続)	7
	協力隊派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	機材供与 (100万円)	0	0
	単独機材供与 (100万円)	0	0
開発調査 (件)	0	0	
プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0	

# アルバニア

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計	
わが国のODA	無償資金協力 (億円)	3.00	4.00	
	有償資金協力 (億円)	31.24	69.71	
	技術協力経費 (億円)	3.66	6.17	
JICAの技術協力実績	形態別	研修員受入 (人)	14 (新規)+1 (継続)	45
		専門家派遣 (人)	3 (新規)+0 (継続)	3
		調査団派遣 (人)	34 (新規)+2 (継続)	53
		協力隊派遣 (人)	0 (新規)+0 (継続)	0
		機材供与 (100万円)	46	65
	単独機材供与 (100万円)	0	0	
	開発調査 (件)	2	2	
	プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0	

わが国の対アルバニアODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

技術協力 2.94 (100%)
------------------------

## ● 公共・公益事業分野 ●

### 開発調査事業

プロジェクト名	概要	相手国の調査団受入先	調査業務受注企業名
ティラナ首都圏下水道整備計画	アルバニアのティラナ首都圏 (人口40万~50万人) の区域を対象とし、2010年を目標年次とする下水道整備計画のフィージビリティ調査を実施する。1996年度は、本格調査を開始し、新規下水処理場の設計、下水道管渠の改善、雨水排水施設の新規敷設計画のフィージビリティ調査を実施し、97年2月に先方に進捗報告書(Ⅱ)を提出した。	公共事業省	監査法人トーマツ 日本上下水道設計㈱

## ● 農林・水産分野 ●

### 無償資金協力事業 (JICA担当分)

プロジェクト名	相手国実施機関	調査業務受注企業名	供与年度	金額 (億円)	E/N署名日	JICA実施業務	
						基本設計・簡易機材案件調査	実施促進・フォローアップ
食糧増産援助	農業食糧省	財日本国際協力システム	96	3.00	96.12.17	96.9 (現)	97.1 (実)

アルバニア政府は、1992年4月に価格自由化と農地・企業の民営化を進める経済改革計画、すなわち94年7月に、97年までにGDPの70%以上を民間が占めることを基本とした「経済民営化計画」を発表した。この時期からの農業体系の再構築、民営化に伴い、食糧増産のための農業生産用資材の投入が必要となった。同国では、農業登録法などの整備は進んでいるものの、その安全使用、適正使用、維持管

理体制ははまだ十分整っていない。したがって農機については、本年度要請より削除する。本件は、同国が策定した農業政策に対し、農業用資機材の調達を図るものである。

## ● 鉱工業分野 ●

### 開発調査事業

プロジェクト名	概 要	相手国の調査団受入先	調査業務受注企業名
シェベニック地域資源開発協力基礎調査	各種調査により、高品位の新規クロム鉱床の賦存状況を把握する。1996年度は、シェベニック中央地区で地質調査および物理探査を実施し、シェベニック南部およびボクラデツ北部地区でボーリング調査19孔、2325mを実施した。その結果、シェベニック中央地区ではダナイトリッチ帯にクロム鉱床が胚胎することが明らかになり、シェベニック南部およびボクラデツ北部地区では、おのおの2孔においてクロム塊状鉱および鉱染帯を捕捉した。	アルバニア地質調査所	住鉱コンサルタント(株)

## アルメニア

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計
わが国のODA	無償資金協力 (億円)	9.00	9.00
	有償資金協力 (億円)	0	0
技術協力経費 (億円)		0.09	0.24
JICAの技術協力実績	形態別		
	研修員受入 (人)	5(新規)+0(継続)	15
	専門家派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	調査団派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	協力隊派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	機材供与 (100万円)	0	0
	単独機材供与 (100万円)	0	0
開発調査 (件)	0	0	
プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0	

わが国の対アルメニアODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

技術協力 0.01 (100%)
------------------------

● 農林・水産分野 ●

無償資金協力事業 (JICA担当分)

プロジェクト名	相手国 実施機関	調査業務 受注企業名	供与 年度	金額 (億円)	E/N 署名日	JICA実施業務	
						基本設計・簡易 機材案件調査	実施促進・ フォローアップ
食糧増産援助	農業省 経済省	(財)日本国際協 カシステム	96	4.00	97.4.10	97.1 (現地 確認)	97.1 (実)
<p>アルメニア政府は、基幹食糧の完全自給を達成しようとする食糧増産計画“Target-oriented Comprehensive Food Production”(「1992TCFP：包括的食糧生産目標・計画」)を策定して、生産量の拡大を図ろうとしている。本件は、上記計画の目標を達成するため農業用資機材の調達を図るものである。</p>							

アゼルバイジャン

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計	
わが国の ODA	無償資金協力	(億円) 6.50	6.50	
	有償資金協力	(億円) 0	0	
JICAの 技術協力実績	技術協力経費	(億円) 0.08	0.25	
	形態別	研修員受入	(人) 9(新規)+0(継続)	20
		専門家派遣	(人) 0(新規)+0(継続)	0
		調査団派遣	(人) 0(新規)+0(継続)	0
		協力隊派遣	(人) 0(新規)+0(継続)	0
		機材供与	(100万円) 0	0
	単独機材供与	(100万円) 0	0	
	開発調査	(件) 0	0	
プロジェクト方式技術協力	(件) 0	0		

わが国の対アゼルバイジャンODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

技術協力 0.33 (100%)
------------------------

● 農林・水産分野 ●

無償資金協力事業 (JICA担当分)

プロジェクト名	相手国 実施機関	調査業務 受注企業名	供与 年度	金額 (億円)	E/N 署名日	JICA実施業務	
						基本設計・簡易 機材案件調査	実施促進・ フォローアップ
食糧増産援助	農業省	(財)日本国際協 カシステム	96	3.50	97.4.7	97.1 (現)	97.1 (実)
<p>アゼルバイジャンの主要食用作物は、主食の小麦と準主食のジャガイモであるが、内戦による農業生産の低迷もあって、自給にはほど遠い状況にある。同国は食糧安全保障の観点から、小麦の増産に主眼</p>							

アルメニア／アゼルバイジャン◎ヨーロッパ等



を置いた増産計画を策定している。本件は、上記計画の目標を達成するため農業用資機材の調達を図るものである。

## ボスニア・ヘルツェゴヴィナ

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計	
わが国のODA	無償資金協力	(億円) 71.42	96.42	
	有償資金協力	(億円) 0	0	
JICAの技術協力実績	技術協力経費	(億円) 0.59	0.59	
	形態別	研修員受入	(人) 21(新規)+0(継続)	21
		専門家派遣	(人) 0(新規)+0(継続)	0
		調査団派遣	(人) 20(新規)+0(継続)	20
		協力隊派遣	(人) 0(新規)+0(継続)	0
		機材供与	(100万円) 0	0
	単独機材供与	(100万円) 0	0	
	開発調査	(件) 0	0	
プロジェクト方式技術協力	(件) 0	0		

わが国の対ボスニア・ヘルツェゴヴィナODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

技術協力 0.3 (1.1%)

無償資金協力  
26.94  
(98.9%)

### ● 公共・公益事業分野 ●

#### 無償資金協力事業 (JICA担当分)

プロジェクト名	相手国 実施機関	調査業務 受注企業名	供与 年度	金額 (億円)	E/N 署名日	JICA実施業務	
						基本設計・簡易 機材案件調査	実施促進・ フォローアップ
主要送電線復旧計画	FD電力公社 RS電力公社	(財)日本国際協 力システム	96	30.95	97.3.28	97.1 (簡)	
ボスニア・ヘルツェゴヴィナでは、約4年間続いた紛争で電力供給力が著しく低下し、経済・社会の復興の大きな障害となっている。このため、北部地域の変電所の復旧、国土を南北に縦断する400kV送電線の復旧と、全国土の高圧送電網の保守を目的として、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ連邦とスルブスカ共和国領内に対し送電線用電線、光ファイバー複合接地線、計器用変成器、変電器などの供与を行う。							
サラエヴォ市公共輸送 力復旧計画	運輸通信省 サラエヴォ 市公共輸送公 社	(財)日本国際協 力システム	96	9.34	97.3.28	97.1 (簡)	
サラエヴォ市は、約4年間の紛争で、公共輸送システムは多大な被害を受け、特に市民の日常の足である公共バスは台数が減少し、また戦火を逃れたバスも老朽化が著しい。このため、同市のバス路線復旧を図り、連結型バス5台、大型バス25台、中型(身障者用)バス5台ならびに修理用工具、スペアパーツの供与を行う。							

● 農林・水産分野 ●

無償資金協力事業 (JICA担当分)

プロジェクト名	相手国 実施機関	調査業務 受注企業名	供与 年度	金額 (億円)	E/N 署名日	JICA実施業務	
						基本設計・簡易 機材案件調査	実施促進・ フォローアップ
食糧増産援助	農業省	㈱日本国際協 カシステム	96	5.00	97.1.10	96.10 (現)	97.1 (実) 97.3 (実)

ボスニア・ヘルツェゴヴィナ政府は、主要食糧作物である小麦、トウモロコシ、ジャガイモの増産を図り、自給率を向上させるために必要な農業生産資機材の調達を内容とする食糧増産計画を策定し、わが国に対し無償資金援助を要請してきた。本件は、上記計画を実施するために必要な資機材の調達を図るものである。

ブルガリア

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計	
わが国の ODA	無償資金協力 (億円)	0.72	4.99	
	有償資金協力 (億円)	0	128.68	
JICAの 技術協力実績	技術協力経費 (億円)	11.40	37.81	
	形態別	研修員受入 (人)	56(新規) + 5(継続)	281
		専門家派遣 (人)	21(新規) + 4(継続)	68
		調査団派遣 (人)	77(新規) + 0(継続)	333
		協力隊派遣 (人)	13(新規) + 38(継続)	63
		機材供与 (100万円)	60	297
	単独機材供与 (100万円)	31.12	89.49	
	開発調査 (件)	4	7	
プロジェクト方式技術協力 (件)	1	1		

わが国の対ブルガリアODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

無償資金協力 0.48 (3.4%)	技術協力 11.86 (84.0%)	政府貸付等 1.78 (12.6%)
--------------------	--------------------	--------------------

● 計画・行政分野 ●

開発調査事業

プロジェクト名	概 要	相手国の調 査団受入先	調査業務 受注企業名
マリツア川流域環境保 全対策計画	ブルガリア政府は、環境改善を重要な課題としており、環境保護・管理のための多くの立法、法改正を行ってきているが、国としての総合的な河川環境保全のための科学的基盤がないため、十分な管理ができていないのが実情である。このことから、ブルガリア政府の要請に基づき、本国最大	環境省	㈱建設技術研 究所 ㈱建設企画コ ンサルタント ㈱パシフィック クコンサルタ

ボスニア・ヘルツェゴヴィナ／ブルガリア ● ヨーロッパ等

	<p>の河川であるマリツア川の流域環境保全のためのマスタープランを策定し、そのなかで選定された優先プロジェクトのフィージビリティ調査を実施する。1996年度は、既存資料の収集・整理・検討を行い、調査の基本方針、調査方法、技術移転計画、調査団およびブルガリア側の作業計画の検討を行い、その結果を着手報告書に取りまとめた。その後、着手報告書を先方に説明し、合意を得た。また、資料収集、現地踏査、水質調査などを実施、環境ゾーニングの検討および水質予測モデルの検討を行い、この結果を進捗報告書(I)に取りまとめ、先方政府に説明した。</p>	<p>ンツインター ナショナル</p>
--	--	-------------------------

## ● 公共・公益事業分野 ●

### 機材供与事業

案 件 名	数量	経費(千円) (支出済み額)	供 与 先	供与形態	関連事業
地震工学研究用機材	一式	13,596	科学アカデミー地震工学研究所	一般単独機材	研修員受入

### 開発調査事業

プロジェクト名	概 要	相手国の調査団受入先	調査業務受注企業名
国鉄・経営改善計画	<p>世界銀行、欧州復興開発銀行は、ブルガリア国鉄に対し、ハード面を中心にリハビリ協力と融資の条件として1998年までの行動計画をもとに組織の構造改革を支援している。このような背景のもと、ブルガリア政府はこれまで世界銀行などが援助してきた短・中期の組織改革、施設のリハビリプログラムの見直し、および長期的な国鉄経営計画を策定するため、わが国に技術協力を要請してきた。本件は、同国政府の要請に基づき、同国の市場経済化への障害となっている国鉄の経営を見直すとともに、近隣諸国との連携を含めた総合的な交通網体系を視野に置いた長期的な経営計画策定に関する調査を実施するものである。96年度は、95年度に締結した実施細則に基づき本格調査を開始し、第1次現地調査を実施し、着手報告書、進捗報告書を作成した。</p>	<p>運輸省 ブルガリア国鉄</p>	<p>榎大和総研</p>

## ● 農林・水産分野 ●

### 機材供与事業

案 件 名	数量	経費(千円) (支出済み額)	供 与 先	供与形態	関連事業
組織培養研究用機材	一式	2,645	農業食品産業省国立花卉栽培研究所	小規模単独機材	協力隊派遣

開発調査事業

プロジェクト名	概要	相手国の調査団受入先	調査業務受注企業名
農業改善計画	ブルガリア政府が選定したベトリッチ地区、ロシッサァ地区、スドドナ・ツンジャ地区を中心に調査を行い、それらの地区より1カ所をパイロットとして選定し、同国の実情に即した包括的な農業改善計画を策定する。1996年度は、本格調査を開始し、国全体のマクロ経済と、農業の現状調査および分析を行うとともに、対象3地区の農業の現状分析を行った。その後、3地区の農業改善のための基本戦略を策定し、スドドナ・ツンジャを優先地区に選定、パイロットプロジェクトとしてのフィージビリティ調査を實踐して最終報告書案に取りまとめ、先方政府に対し説明・協議を行った。	農業食品産業省	(株)三祐コンサルタンツ (株)大和総研

● エネルギー分野 ●

プロジェクト方式技術協力事業

プロジェクト名 期 間	各種チームの派遣		人 数 ・ 経 費 実 績			
	年度	形 態		専門家派遣 (人)	カウンターパート受入(人)	機材供与(千円)
省エネルギーセンター (当初R/D協力期間) 95.11.1~2000.10.31	94	事前調査	95年度までの 累 計	7	2	3,343
	95	長期調査		96年度	新規 11	0
	95	実施協議	継続 4			
	96	計画打合せ				

〈要請背景〉

エネルギー資源に乏しく、その供給の多くを旧ソ連圏からの輸入に頼ってきたブルガリアでは、コモコン体制の崩壊により輸入エネルギーを国際価格で購入せざるを得なくなったことから、1990年以來エネルギー価格が急騰し、産業活動活性化の障害となっている。

〈目標と期待される成果〉

ブルガリア産業省内に省エネルギーセンター（EEC）を設立し、同センターが、独力でブルガリアにおける有効な省エネルギーに関する施策の提言、および産業界の省エネルギー技術の指導を行うことができるようになることを目標としており、ブルガリア産業界におけるエネルギー消費の改善が期待される。

〈協力活動内容〉

省エネルギーに関する以下の活動を行う。

- (1) 工場診断および改善指導コンサルティング (2) 情報利用 (3) 施策提言 (4) 広報

ブルガリア ● ヨーロッパ等

開発調査事業

プロジェクト名	概要	相手国の調査団受入先	調査業務受注企業名
マリツツアイースト第1火力発電所性能改善・環境保全再建計画	マリツツアイースト第1火力発電所は、老朽化が著しく、排煙が環境基準を大きく超えている。このため、本発電所を環境基準に合致させ、かつ経済的に再建するために、本発電所第5・第6号機の撤去跡地に、隣接する炭鉱からのリグナイト炭を用いて新発電設備を建設するためのフィージビリティ調査を行う。1996年度は、最終報告書案の提出・説明を行い、最終報告書を作成し、送付した。	国営電力会社	電源開発(株) 東電設計(株)

● 保健医療分野 ●

機材供与事業

案件名	数量	経費(千円) (支出済み額)	供与先	供与形態	関連事業
眼科診断用機材	一式	14,884	保健省セント・イヴァン ルスキー医科大学病院	一般単独機材	研修員受入

クロアチア

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計
わが国のODA	無償資金協力 (億円)	0	0
	有償資金協力 (億円)	7.72	7.72
技術協力経費 (億円)		0.07	0.07
JICAの技術協力実績	形態別		
	研修員受入 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	専門家派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	調査団派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	協力隊派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	機材供与 (100万円)	0	0
	単独機材供与 (100万円)	0	0
開発調査 (件)	0	0	
プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0	

わが国の対クロアチアODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

技術協力 0.13 (100%)
------------------------

# サイプラス

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計
わが国のODA	無償資金協力 (億円)	0	0
	有償資金協力 (億円)	0	0
JICAの技術協力実績	技術協力経費 (億円)	0.21	0.89
	形態別		
	研修員受入 (人)	1(新規)+3(継続)	28
	専門家派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	調査団派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	協力隊派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	機材供与 (100万円)	0	0
	単独機材供与 (100万円)	0	0
	開発調査 (件)	0	0
	プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0

わが国の対サイプラスODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

技術協力 0.32 (100%)
------------------------

# チェッコ

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計
わが国のODA	無償資金協力 (億円)	0.42	2.32
	有償資金協力 (億円)	0	0
JICAの技術協力実績	技術協力経費 (億円)	0.35	2.60
	形態別		
	研修員受入 (人)	13(新規)+1(継続)	97
	専門家派遣 (人)	3(新規)+0(継続)	6
	調査団派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	協力隊派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
	機材供与 (100万円)	3	32
	単独機材供与 (100万円)	0	0
	開発調査 (件)	0	0
	プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0

わが国の対チェッコODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

無償資金協力 0.50 (23.7%)	技術協力 1.61 (76.3%)
---------------------------	-------------------------

## エストニア

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計	
わが国の ODA	無償資金協力 (億円)	0	0	
	有償資金協力 (億円)	0	0	
JICAの技術協力実績	技術協力経費 (億円)	0.035	0.035	
	形態別	研修員受入 (人)	3(新規)+0(継続)	3
		専門家派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
		調査団派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
		協力隊派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
		機材供与 (100万円)	0	0
	単独機材供与 (100万円)	0	0	
	開発調査 (件)	0	0	
	プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0	

わが国の対エストニアODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

## グルジア

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計	
わが国の ODA	無償資金協力 (億円)	10.00	10.39	
	有償資金協力 (億円)	0	0	
JICAの技術協力実績	技術協力経費 (億円)	0.15	0.37	
	形態別	研修員受入 (人)	6(新規)+0(継続)	20
		専門家派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
		調査団派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
		協力隊派遣 (人)	0(新規)+0(継続)	0
		機材供与 (100万円)	0	0
	単独機材供与 (100万円)	0	0	
	開発調査 (件)	0	0	
	プロジェクト方式技術協力 (件)	0	0	

わが国の対グルジアODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

技術協力 0.17 (100%)
------------------------